

ウクライナへの支援物資、義援金のご協力、ありがとうございました！ ～日本語学習会への協力団体 toriフレンドnetworkによる活動～

ウクライナへの支援物資の提供を、toriフレンドnetworkの方が呼びかけられたところ、県内外から段ボール箱31箱以上の支援物資、義援金の寄付が集まりました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。

支援物資などは北栄町にお住まいのウクライナ出身の方へ届けられ、今後、支援の必要な国に届けられる予定です。

(現在は物資、義援金共に受付は終了しております。)

ウクライナへの侵攻には歯止めがかかっておらず、市民の犠牲者も急増しており、戦争から逃れるために住む場所を失った方々も大勢いらっしゃいます。

戦争は最悪な人権侵害の形であり、正当化出来るものではありません。戦争に反対する声も、世界各地で多く、上がっています。

戦争が人類にとって何も良いことをもたらさないのは、今までの歴史でも明らかになっていることです。平和とは、くおだやかで変わりのないこと、また、戦争がなくて世が安穏であること)を指します。(広辞苑より)

もう一度、平和のために私たちは何が出来るのか、何を考えていかななくてはいけないのかを見つめ直す必要があります。



◎toriフレンドネットワークとは…

鳥取県在住の外国にルーツを持つ方々の繋がりを広げていくためのコミュニティです。日本語学習会や、外国の方との交流など、様々な活動を行っています。

安心して生活が出来ますか？眠れていますか？ 食事はとれていますか？

仕事・生活・病気など様々な生活背景によって心配事は絶えません。まずは生活の基である、住む・食べる・寝るといことがとても大切です。不安な状況が続く事があればお気軽にお越しください。電話対応もいたします。

差別落書きを見たら！人権侵害に気づいたら！すぐに知らせてください。

人権侵害や差別落書きは許されない行為です。私たちの故郷、自慢の町を落書きで汚され傷つけられるのはごめんです。みんなで気持ちの良いまちづくりをしていきましょう。

連絡先：倉吉市人権文化センター ☎・FAX (0858) - 22-4768



きずな

倉吉市人権文化センターだより

2022年4月1日 発行 No.136号

発行所：倉吉市人権文化センター

住所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

2022年度「日本語学習会」前期が始まります

くらよしじんけんぶんか ちゅうぶちく ざいじゅう がいこく かた
倉吉市人権文化センターでは、中部地区に在住する外国にルーツのある方を

たいしょう あんしん く ため せいかつ ひつよう ことば ちゅうしん にほんごがくしゅうかい
対象に、安心して暮らす為の生活に必要な言葉を中心に「日本語学習会」

かいさい
を開催しています。

おこない ことば りかい じょうきょう あ がくしゅう げんざい
マンツーマンで行い、言葉の理解できる状況に合わせて学習します。現在、

かんせんよぼう ひとり がくしゅう じっし じたく
コロナウイルス感染予防のため一人ひとりのリモート学習も実施しています。自宅から

あんしん がくしゅう きがる そうだん おこ くだ ひょう むりょう
安心して学習できますので気軽に相談にお越し下さい。費用は無料です

場所：倉吉市人権文化センター 時間19:30～21:00 電話 22-4768

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4月13日	5月11日	6月8日	7月6日	8月10日	9月14日
27日	25日	22日	20日	24日	28日

(いずれも水曜日、場合によっては昼間の時間でも対応します。)



リモート学習



対面学習



子どもと一緒に学習

先人の思いを受け継ぎ ～全国水平社創立100周年記念集会～

- 1 日 時 2022（令和4）年3月3日（木）12:40～17:30
- 2 場 所 ロームシアター京都 メインシアター
〒606-8342京都市左京区岡崎最勝寺町13番地（岡崎公会堂跡）

水平社創立100周年記念集会について

1922（大正11）年3月3日、京都岡崎公会堂で全国から3000人余りの被差別部落大衆が結集し、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で結ばれた水平社宣言を採択し全国水平社が誕生した。そして多くの仲間たちがその思いを継承し運動が各地で展開され100年が経過、2022年3月3日、部落解放運動のこれまでの成果とこれからの運動のさらなる発展に向け、全国各地からコロナ過の中1000人以上の人々が参集した。

集会の冒頭には、物故者・無名戦士に向けて黙とうをおこない運動の前進を誓った。主催者あいさつに立った組坂委員長は、「100年続く運動を受け継ぐことを誇りに思いながら、先人の血と汗、涙の尊い犠牲の上に今の運動があることを胸に刻もう」と呼びかけ、ロシアのウクライナ軍事侵攻について「戦争は最大の人権侵害。人間の尊厳を求める我々は仲間とともに反戦の声を大きくしなければならぬ」と強調した。

集会オープニングは京都・吉祥院六斎念仏踊りが披露、水平社宣言の朗読、京都府知事、市長、各政党の来賓あいさつ等があった。第2部では、映画「破戒」の完成披露上映に先立ち、主役の「丑松」を演じた間宮祥太郎さんと前田和男監督の舞台あいさつがあり、試写会が行われた。

映画「破戒」について

島崎藤村、不朽の名作「破戒」が60年ぶりに東映によって映画化された。60年前の映画や原作は、部落差別から逃げようとする丑松の悩み、苦しみ、葛藤そして最後には自分が受け持つ生徒や同僚教員への部落出身者だという告白が余りにもすさまじく、当時は差別がこんなにも悲惨だったのか、という何とも言えない重苦しいイメージであった。



しかし、今回の作品は主人公「丑松」の出自に悩みながらも、凛とした清々しさを感じる意志の強さ、彼を支えようとする「志保」、そして、子どもも含めてまわりの人々の理不尽なもの、大切なものは何かを考えようとする姿、その時代を生きる人の鼓動が聞こえるかのような内容であった。決して軽い空虚な作品ではなく、部落差別を知らない現代を生きる若者がみても一石を投じる映画であると思うし、多くの人の鑑賞を望みたい。

（2022年7月8日（金）より、丸の内TOEIほか全国ロードショー）

バトンを次の世代に（感想雑感）

我々の先人は、遠く平安時代（794年～1185年）から、「えた（穢多）」、「河原者」と呼ばれ当時の民衆や権力者から差別されながらも、庶民にはない特別な能力・知識・技術・文化によって、その時代には無くてはならない役目や仕事を担い、その時代の生活や文化を支えてきた。差別を認めることなく、差別に抗いながらもこの国や社会をもっとより良い、誰にとっても暮らしやすい社会にするために。

多くの先輩の血のにじむ努力や闘いによって、今私たちが暮らす街や環境が存在している。その努力と闘いがなければ、私たちの命は存在していない。だからこそ、先輩から受け取ったバトンを自分の後輩や次の世代に渡していく役目が私たちにはある。

全国水平社創立大会で読み上げられた「宣言」の前文である綱領には、「吾等（われら）は人間性の原理に覚醒（かくせい）し人類最高の完成に向って突進（とっしん）す」と書かれている。

そして、我々は選ばれし存在としてこの世の中に生まれてきた。どこに生まれようが、障害があろうが皮膚の色が違おうが、そんなことは関係ない。今この地球上に存在する人々は、選ばれて命

を与えられている。この社会をもっと住みやすい、もっとみんなが幸せに暮らせる社会にするようにという使命をもって、この世の中に存在している。

部落差別は時代とともに変化し、我々の身近に存在している。そして悪質化、陰湿化し確信的な差別が発生している現状を踏まえ、その差別に果敢に集団運動をもって挑んでいかなければならない。

差別をなくすということは、社会を変えるということ、どんな違いがあろうと、どんな立場であらうとその違いを認め合い、相手を尊敬する存在だと思ひ合える社会をつくるのが私たちの社会的使命であり、社会的存在意義であることを確認した全国水平社創立100周年記念集会であった。

文責：倉吉市人権文化センター下吉真二

←左の写真は、岡崎公会堂跡地にある「全国水平社創立の地（石碑）」、右側の和服姿の男性は門川京都市長

